

(2) 新交通システム部会、まちづくり部会の開催結果

① 交通システム部会（平成 28 年 6 月 10 日開催）議事要旨

1. 今年度の検討の進め方

- ◇ 第 3 回の検討項目にある「ルート設定」とはどういう意味か。
 - 新交通のルートは小山駅から東光高岳までを大前提としているが、アンケート結果も踏まえて、起終点や枝線などのルート延伸の可能性を検討する。（事務局）

2. アンケート調査の実施方針

（調査の位置づけについて）

- ◇ アンケート調査の位置付けと結果の使われ方を知りたい。今回のアンケート結果次第ですぐに事業化されるのか。
 - どれくらいの方に乗っていただけるか、概略の需要を把握することが主な目的である。平日の通勤通学、私事の人数を把握したい。運賃収入の推定根拠にも活用したい。また、これまで詳細情報を市民等に出してないため、情報提供する意味で沿線に全戸配布する。（事務局）
 - アンケート調査の目的は、交通需要の予測および住民等への情報発信・周知と理解した。（大森宣暁会長）

（調査対象について）

- ◇ 一般市民のサンプル数 100 は少ないと感じる。フィーダーやパークアンドライドで使われる地域や観光で使われる地域などでも調査してはどうか。
 - 沿線を主に調査するが、域外はフィーダーやパークアンドライドの利用が想定される地域を絞り込んで調査することも検討したい。（事務局）
- ◇ アンケートは全数調査が本当に必要か。自治会の負担も考慮すべき。
 - なるべく多くの方に意見をもらいたい。また、情報提供・啓発の意味もある。沿線半径 500m のエリアで全戸配布 3,000～4,000 を想定しているが、郵送返信で回収率は 3～4 割になる。自治会の班長さんを通じた全戸配布を考えており、まちづくり部会で協力を依頼する。（事務局）
- ◇ 自治会未加入者にアンケートは届かない。若い人の意見をどう確保するかが課題である。（大森宣暁会長）
 - 学生や若い世代への配布方法は、自治会長と相談しながら検討したい。（事務局）

（前提条件について）

- ◇ 利便性に関わる条件があると判断しやすい。例えば、通勤に合う時間の運行状況や乗り継ぎのしやすさ、JR との時間調整などがある。
 - 小山駅付近での JR との乗り継ぎ方法や時刻表などの詳細は今後つめていくことになるが、わかりやすい調査票になるよう工夫する。（事務局）

- ◇ アンケートでは、現状の土地利用に新交通が導入された状態を想定させるのか、あるいは将来の目指すべきまちの姿に変わった状態を想定させるのか。(大森宣暁会長)
 - 10年後や20年後の想定は難しいと考え、現状の土地利用を想定して新交通を利用するかを問うている。これについては、まちづくり部会でも意見をもらえればと思っている。現段階ではまちづくり等の事業予定も明確になっていないため、現状を想定して回答していただくことを考えている。また、新交通を利用する条件の選択肢に「沿線に新たな施設や活動拠点ができる」を入れている。(事務局)

(利用意向の聞き方について)

- ◇ コミュニティバスを導入する際、運賃は高くてもよいので運行本数を増やしてほしいと希望した。運賃と運行本数は一体で考えるべき。
- ◇ 当社の事例では、他市の社会実験で新設バス路線の運賃を150円に設定したが、採算が合わなかった。そこで200円に運賃を値上げしたが、利用者は減らず、むしろ増えた。サービス水準は下げられない。運賃よりサービス水準が重要。
- ◇ 定額運賃がよいか、距離別運賃がよいかを聞いてはどうか。

以上

②まちづくり部会（平成 28 年 6 月 10 日開催）議事要旨

1. 今年度の検討の進め方

- ◇ 了承された。

2. アンケート調査の実施方針

（調査の位置づけについて）

- ◇ 市民の費用負担が明確になっていない中、このアンケートを通じて、新交通システムが実現化される印象となり過渡な期待を与えないか懸念する。新交通の必要性や昨年度の検討委員会が出された方向性について意見を聞く目的もあるのではないかと懸念する。昨年度の検討委員会では慎重論も出たことから、反対され中止になってはもったいない。調査は慎重に行う必要がある。一般市民 100 はサンプル数が少ない印象を持つ。
 - 費用の概算を出すためのアンケートになるのではないかと懸念する。一般市民に聞く方法は、夏祭りの場で子連れやお年寄りにアンケートを行う。回収数が 100 になるか 200、300 になるかわからないが、ランダムな抽出になる。昨年度の検討成果の周知が十分ではないと言う意見は確かであり、今後、新聞などのメディアを巻き込みながら、市民に公表・発信していく必要がある。（豊川会長）

（調査方法について）

- ◇ 企業へのアンケートは、他県から通勤している社員もいるため、「高岳引込線とは何か」から説明する必要がある。一方、始業時間や出勤時間などの情報については、会社としてデータ提供も可能である。
 - 会社として可能な範囲で社員数や公共交通利用者数などの集計値を教えて頂ければと思う。新交通の利用意向も聞きたいと考えているが、今後も調査方法などについて相談させてほしい。（事務局）
 - 企業のルールとすりあわせながら、企業毎に適したアンケート調査票なども検討が必要になる。（豊川会長）

（調査対象について）

- ◇ 計画している配布範囲では、主な居住地が外れる自治会がある。
 - 中久喜自治会や犬塚自治会は南北に長いため、高岳引込線から半径 500m の範囲の使っていただけることが可能なエリアを対象に調査したい。（事務局）
- ◇ 小山高専付近は配布範囲から外れているが、小山高専の近くで建売住宅の開発が進んでおり、配布すれば若い世代の意見も聞けるのではないかと懸念する。
 - 小山高専周辺にお住まいの子育て世代なども、多少離れていても新交通を利用する可能性がある。末端付近などは調査範囲の再調整が必要である。（豊川会長）
 - 自転車を使って新交通を利用する人もいるのではないかと懸念する。調査範囲は自治会長と相談して決めてはどうか。

(アンケートの設問について)

- ◇ 昨年度の検討委員会では、高岳引込線に新交通を走らせると、自家用車での通勤やトラックの運搬などに不具合がでるのではないかと意見が出ていた。交代勤務の場合、朝は駐車場から出られなくなることも考えられる。混雑を考慮して早く家を出ることが必要になるかもしれない。そういった意見を回収できる項目を設けるべき。
 - ▶ 首都圏などでは踏切の問題があるが、交通の不具合のシミュレーションも今後必要になってくる。(豊川会長)
 - ▶ 信号になるか踏切になるかによって、交通渋滞などの影響が変わってくるのではないかな。
 - ▶ 今後、法律などを踏まえて、交通管理者と協議をしながら検討する。(事務局)

(「別紙」について)

- ◇ 但し書きをきちんと理解して回答していただけるか心配である。工場のグラウンドや緑地の一般開放は、安全管理などの面で企業として難しい課題もあり、前面に出すぎると困る。
 - ▶ 別紙については、情報量を精査してわかりやすくすることも必要だが、駅前を整えて宿泊機能をつくり交流拠点を確保するなどの外せないキーワードもある。わかりやすい資料づくりに努めてほしい。(豊川会長)

以上